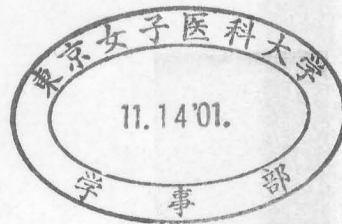


2001年度 Block. 6

課題 No. 6

「痛みで悩まされている藤本 弘さん」



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

藤本さんは75歳。1年前に胃の手術を受けました。自宅で毎日過ごしていますが、最近、痛みで悩まされています。

キーワード：胃の手術、胃切除後疼痛、在宅疼痛緩和治療

【抽出を期待する事項】

・胃切除後疼痛

→A) 1. 胃切除術後患者の疼痛の種類と発生機序について概略を説明できる。

・自宅で毎日過ごしている

→A) 4. 在宅疼痛管理について、その方法を述べる事ができる。

藤本さんは胃癌でした。すでに肝転移がありましたが、家族の希望で本人には病名は知らされていません。毎日点滴が欠かせず。これがないと痛みがでてくるそうです。家族は70歳の妻と長男夫婦の4人です。全員、彼の自宅での療養に賛成していますが、最近、妻は看護で疲れているようです。

キーワード：胃癌、肝転移、点滴、癌性疼痛、在宅疼痛管理、緩和ケア

【抽出を期待する事項】

・胃癌、肝転移

→ B) 1. 末期消化器癌患者の症状を説明できる。

・点滴が欠かせず、これがないと痛みがでてくる

→ A) 2. 癌患者における疼痛の種類と発生機序について概略を説明できる。

→ A) 3. 癌患者の除痛方法、WHO癌疼痛治療法を説明できる。

→ A) 4. 在宅疼痛管理について、その方法を述べることができる。

・彼の自宅での療養に賛成している

→ A) 6. 在宅ケアの三原則を説明できる。

・妻は看護で疲れている。

→ A) 5. 緩和ケアの意味を説明できる。

上腹部および背部の激痛と共に黄疸が発生し、毎日吐くようになりました。
食事も全く食べられなくなりました。突然吐血し、再度、入院を勧められました。

キーワード：上腹部および背部の激痛、黄疸、嘔吐、食事も食べられない、
吐血、再入院

【抽出を期待する事項】

- ・上腹部および背部の激痛
 - A) 2. 癌患者における疼痛の種類と発生機序について概略を説明できる。
 - B) 1. 末期消化器癌患者の症状を説明できる。
- ・黄疸が発生し、毎日吐くようになり、全くものが食べられなくなりました。
 - B) 1. 末期消化器癌患者の症状を説明できる。
- ・突然吐血し、再度、入院を勧められました。
 - B) 1. 末期消化器癌患者の症状を説明できる。
 - B) 3. 在宅から入院治療への移行時期について各々の考え方をまとめる。

藤本さんは入院し、輸血と高カロリー輸液を受けることになりました。その時主治医に『ある日、医師の書いた生命保険診断書の通知書の封を切って読み、病名を知っていたこと』を話しました。主治医は改めて、病気の発症から今までの経過を説明し、藤本さんに今後の希望を尋ねました。

キーワード：入院、輸血、高カロリー輸液、生命保険診断書の病名、
今後の希望

【抽出を期待する事項】

- ・輸血と高カロリー輸液
 - B) 2. 末期腫瘍患者の栄養管理について、その方法を理解し説明できる。

- ・病名を知っていた
- ・主治医は病気発症から今までの経過を説明
 - B) 4. 癌告知について、その意義、問題点を理解できる。
 - C) 1. 癌性疼痛の出現時期、腫瘍の種類、年齢、症状により予後が説明できる。

藤本さんはホスピスのことも考えましたが、家の近くにありません。入院中にVHカテーテルが挿入され、痛みのコントロールが完全に行われた上で、在宅ホスピスに移行できました。藤本さんは今、家族やスタッフと十分に話し合いながら、自宅での生活を続けています。

キーワード：ホスピス、VHカテーテル、在宅ホスピス、医療スタッフ

【抽出を期待する事項】

・VHカテーテル

→ B) 2. 末期腫瘍患者の栄養管理について、その方法を理解し説明できる。

・ホスピス、在宅ホスピス、家族や医療スタッフと十分に話し合う

→ A) 5. 緩和ケアの意味を説明できる。

→ A) 6. 在宅ケアの三原則を説明できる。